

令和7年度学力学習状況調査分析

佐呂間町立若佐小学校 令和7年8月10日

1 調査期日

令和6年4月17日（木）

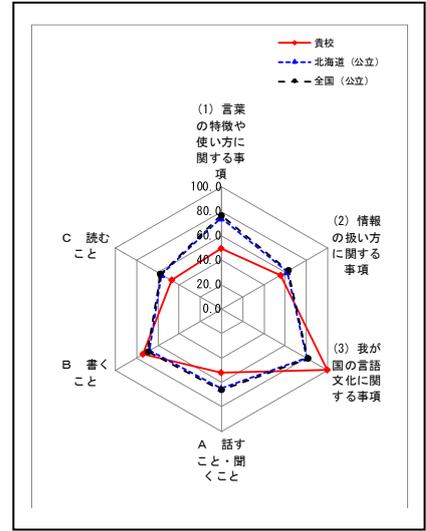
2 対象児童

第6学年 9名（男子5名、女子4名）未実施0名

3 調査結果

【国語】

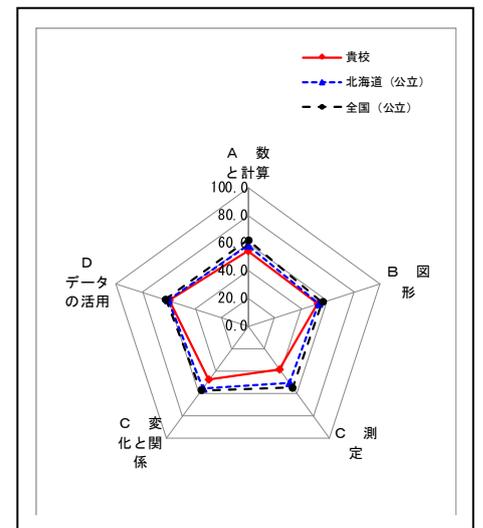
分類	区分	問題数	平均正答率%	全道	全国	
全体		14	59	65	66.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	50.0	74.8	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	55.6	61.8	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	100	80.6	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	51.9	65.0	66.3
		B 書くこと	3	74.1	68.3	69.5
C 読むこと		4	47.2	56.1	57.5	
評価の観点	知識・技能	4	63.9	73.0	74.5	
	思考・判断・表現	10	56.7	62.4	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	59.3	63.3	64.7	
	短答式	3	59.3	76.8	78.5	
	記述式	2	55.6	58.1	58.8	



- 全体で見ると平均正答は59%で、全道から6%、全国から7.8%低かった。
- 学習指導要領の内容（領域）ごとに平均正答率を見ると、「話すこと・聞くこと」は51.9%、「読むこと」は47.2%、「書くこと」は74.1%となった。「書くこと」は、全国平均を5%上回っており、学習の成果が見られる。しかし、「話すこと・聞くこと」・「読むこと」は全道・全国の平均を大きく下回っており、これらの領域が課題となっている。
- 観点別に平均正答率を見ると、「知識・技能」は63.9%、「思考力・判断力・表現力」は56.7%であった。「知識・技能」では、文章中のひらがなを漢字に書きなおすことに課題がある。
- 問題形式では、選択式・短答式は全道・全国を下回ったが、記述式は55.6%で全道・全国に迫るものであった。

【算数】

分類	区分	問題数	平均正答率%	全道	全国
全体		16	51	55	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	54.2	58.6	62.3
	B 図形	4	52.8	53.9	56.2
	C 測定	2	38.9	50.7	54.8
	D 変化と関係	3	48.1	55.4	57.5
	E データの活用	5	60.0	60.9	62.6
評価の観点	知識・技能	9	60.5	62.6	65.5
	思考・判断・表現	7	38.1	45.5	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	61.1	66.4	67.2
	短答式	6	57.4	59.7	64.0
	記述式	4	25.0	31.4	34.9

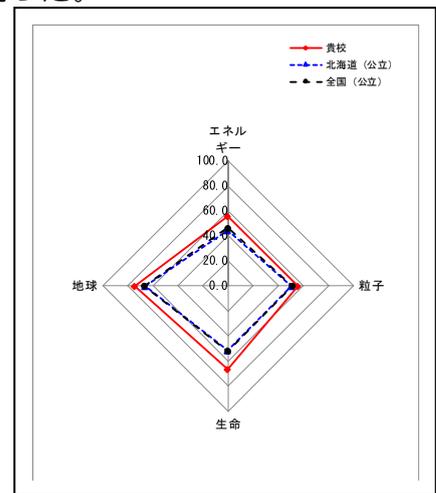


- 全体で見ると平均正答は51%で、全道から4%、全国から7%低かった。
- 学習指導要領の内容（領域）ごとに平均正答率を見ると、すべての領域で全道・全国を上回ることができなかった。「B 図形」は52.8%、「E データの活用」は60.0%で、全道に迫ることができた。
- 観点別に見ると、「知識・技能」は約60.5%、「思考力・判断力・表現力」は38.1%であった。

■問題形式では、記述式が25.0%で、全道・全国を大きく下回った。

【理科】

分類	区分	問題数	平均正答率%	全道	全国	
全体		17	65	56	57.1	
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	55.6	44.8	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	55.6	50.7	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	66.7	51.9	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	74.1	65.9	66.7
評価の観点	知識・技能	8	63.9	54.2	55.3	
	思考・判断・表現	9	66.7	58.2	58.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	11	63.6	53.8	54.7	
	短答式	4	80.6	69.2	69.7	
	記述式	2	44.4	44.3	45.2	



- 全体で見ると平均正答は65%で、全道から9%、全国から8%上回っている。
- 学習指導要領の内容（領域）ごとに平均正答率を見ても、すべての領域で全道・全国を上回っている。特に、「エネルギー」を柱とする領域では、全国を8.9%、「生命」を柱とする領域では、全国を14.7%上回っている。
- 観点別に見ると、「知識・技能」は63.9%、「思考力・判断力・表現力」は66.7%で、ともに全国・全道を大きく上回っている。
- 問題形式は、選択式・短答式は大きく上回ったが、記述式は44.4%で、全国を0.8%下回った。

4 調査分析

【国語】

- 国語の平均正答率、今年度の全体は59%で、昨年度の本校全体64%と5ポイント下回った。今年度の全道65%、全国66.8%と比較し、7ポイントほど下回った。
- 領域別に見ると、知識及び技能「(3)我が国の言語文化に関する事項」は、100%の正答率で20ポイントほど大きく上回った。世代によってものの呼び方が違うことを全員読み取ることができていた。
- 思考力、判断力、表現力等「B 書くこと」が74.1%で5ポイント上回る結果となった。「手ぬぐい」に関する文章を見て、どのような文章構成になっているかを読み取ることができている。また、「手ぬぐい」の物を包む使い方を百字以内にまとめる問題では、無回答は一人だけで、大切なところをある程度まとめることができていた。
- 知識及び技能「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、思考力、判断力、表現力等「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」の領域のポイントが下回った。
 「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」は、「好み」と「暑い日」の書き取りが、50%しか取れていない。
 「A話すこと・聞くこと」は、バスの運転手さんにインタビューする目的や理由を考える問題であったが、全問正解している児童も数人いるが、ほぼ間違えている児童も何人かいる。
 「C読むこと」は、「言葉の変化」に関する4つの資料から、問題に関わるところを読み取って答える問題である。3人は資料を読み取って適切に問題に取り組んでいるが、半数以上の児童は資料と問題の意味を捉えることが難しいとみられる。

【算数】

- 算数の平均正答率は、今年度の全体は51%で、昨年度の本校全体も51%と変わらなかったが、今年度の全道61%・全国63.4%と比較し下回った。
- 領域別に見ると、「B図形」52.8%、「Eデータの活用」60.0%で、全道平均に近づくことができた。「C測定」38.9%、「D変化と関係」48.1%で、全道平均を下回った。
 「B図形」は、平行四辺形の描き方、いくつかの図形の中から台形を選ぶ、角の大きさを比べる問題であったが、ある程度正解に導くことができていた。
 「Eデータの活用」は、全国のプロコリー・だんこんの出荷量のグラフを読み取り、内容が合っているものを選ぶというもので、ある程度正解に導くことができていた。

「C測定」は、ハンドソープの容器に入っている量で後何回使えるかを調べるには何がわかればよいかという問題と目盛りの読む問題であったが、1/3程度の正解となった。

「D変化と関係」は、「10%増量」とは何倍などが問題となっていたが、全道平均を7ポイント程下回った。

- 評価の観点で見ると、「知識・技能」が全道平均に1.1%届かなかった。「思考・判断・表現」は7ポイントほど下回り、課題が見られる。
- 問題形式では、短答式の問題は全道平均に迫っているが、記述式の問題は全道平均を7%ほど下回っている。
- 分母の違う分数のたし算を共通する単位分数で求める問題と数直線上に示された分数を書く問題が、11.1%の正解率となり低かった。
五角形の面積を二つに分割し求める問題の正解率が22.2%となり低かった。

【理科】

- 理科の平均正答率は、今年度の全体は65%あり、全道・全国平均を大きく上回っている。
- 領域別に見ても、4領域すべて全道・全国平均を大きく上回っていて、どの領域も学んだことがしっかり定着している。特に、実験する際には条件を同じにする問題、実験の結果から考察する問題、ヘチマのおしべとめしべを判別する問題は、90%以上の正答率であった。
- 問題形式の記述式がポイントが低く、水のしみこみ方の実験をまとめたわけを結果をもとに記述する問題、レタスが発芽する条件を水・空気・温度の以外の必要な条件を選ぶ問題が44%で正答率が低かった。

【総括】

○成果

理科の学習は、何を調べるための実験なのか、結果から考察されることはどんなことなどしっかり考える力が備わっていて、学習の定着がとても素晴らしい。単学年で、丁寧に実験や観察をして学習してきたことの表れであると感じる。

国語の中では、「書くこと」の力が身に付いてきている。複式の中での自学で取り組む問題解決学習のやり方が身に付き、力となっているように感じる。

算数では、日々の丁寧な指導により、図形を用具を使って描く力、グラフを正確に読み取る力などがついてきている。

これからも児童の実態を把握し、課題を丁寧に扱い、自分で考えることの楽しさを味わわせ、興味・関心を引き出す「主体的・対話的な学び」を行っていくことが大切である。

○課題

国語では、漢字の書き取りの問題が50%しか取れていない。複数の読み方のある漢字、同音異義語のある漢字などの習得が必要である。「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域でポイント低いところがあるが、できる児童とできない児童の差が激しい。意図を持って本を読ませることにより、読解が得意ではない児童の力を上げていく必要がある。

算数では、「測定」の領域が低く、はかりの目盛りの読み方など基本的なことを丁寧に指導する必要がある。また、「パーセント」と「何倍」の関係の意味を理解させていく必要がある。評価の観点では「思考・判断・表現」、問題形式では「記述式」に課題があるため、しっかりと問題の意味を読み取り、考えたことを文章に表す力をつけていく必要がある。

理科は、特に課題はないが、問題形式の「記述式」のところが44.4%なので、やはり思いついたことを文章にする力をつけていく必要がある。

5 改善策

- 朝の活動の時間を利用し、読書活動を推進する。また、読み聞かせなどを行い、本に関する興味関心を持たせる。
- 普段の授業の中でも、音読(群読、二人読みなどの読み方の工夫など)に取り組む時間をつくっていく。
- 漢字の読み書きの反復練習(宿題、家庭学習の取り組み)、朝の時間のわかさっ子漢字での取り組み、複式学習での隙間時間の取り組みなどで、漢字の力をつけていく。

- 言語活動の推進（話し合う活動・ディベートに取り組み説明したり説明文を書いたりする活動など）
- 計算の反復練習（宿題・家庭学習での取り組み、わかさっ子計算での取り組み、複式学習での隙間時間の取り組みなどで、基本的な計算の力をつけていく。）
- どの教科でも資料(グラフ)の読み取りが重要である。単純な数値の読み取りだけではなく、2つ以上の資料やグラフからどんなことがわかるかを言語化する必要がある。
- 算数では、「割合」に関わる問題が多く出題される。何倍を表していることや「基準量」「比較量」「割合」の意味をしっかりと理解する必要がある。
- どの教科も、記述式の問題に課題が見られる。今までの出た問題を授業の中で行い、問題に慣れておく必要を感じる。
- 既習事項の確認（既習事項の教室掲示・毎時間、既習事項の簡単な振り返りなど）
- 学習のまとめの記入（低学年は◎・○・△の記入・高学年は文章の記入）